



少年センターだより



令和8年3・4月号 (第441号)

毎月1日「少年の日」 ☆育て少年心豊かにたくましく！第3日曜日「家庭の日」 ☆咲かせよう明るい会話，家族



第44回大村市青少年健全育成研究大会 【少年の意見発表者】



2月28日(土曜日)に「第44回大村市青少年健全育成研究大会」が行われました。7名の発表者には、今、何を思い、何を考え、どうしたらよいかなど感性豊かに発表してもらいました。力強く、堂々と発表する姿は誇らしく、パワーをもらいました。



発表者	学校・学年	題名
濱口 笑花	三浦小6年	三浦小学校で、感じ学んだこと
貝屋 雄聖	東大村小5年	ツシマヤマネコを守ろう
松尾 莉央	萱瀬小6年	頼られる助産師になるために
川口 心美	福重小6年	自分に合った居場所
平山 七海	大村中2年	暮らしの根っこ
原 龍ノ介	西大村中2年	不登校を乗り越えて見えた人権の意味
泉 菜々	郡中2年	一度きりの人生だから

非行・事故防止(明るい家庭づくり)ポスター表彰

「非行事故防止(明るい家庭づくり)」のポスター表彰には、子どもたちの純粋な思いが込められた1020作品が寄せられました。ご協力いただいた各小中学校の皆様にご心より感謝申し上げます。

これらのポスターは、単に視覚的な美しさや技術的な巧みさだけでなく、子どもたちの心の声や家族の大切さ、そして非行を未然に防ぐ社会のあり方を見事に表現しています。子どもたちの純粋で真剣なメッセージは、明るく健全な家庭づくりの重要性をあらためて私たちに教えてくれています。

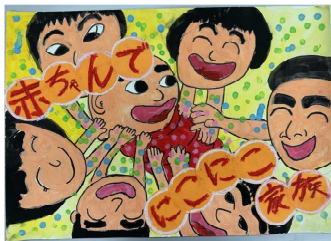
最優秀賞

沖田 煌太朗(黒木小3年)

米山 侑那(中央小5年)

横田 侑奈(大村中2年)

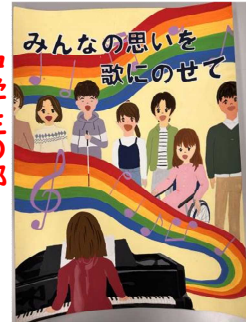
低学年の部



高学年の部



中学生の部



優秀賞

鍋内 優花(竹松小1年)

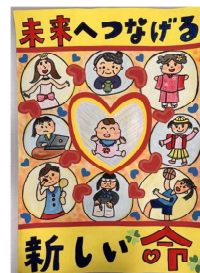
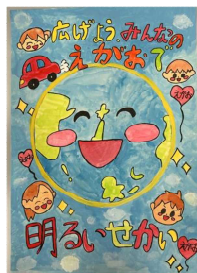
森 桜(大村小2年)

宮崎 華楽(中央小4年)

木村 咲音(放虎原小5年)

藺田 莉子(大村中2年)

酒井 瑞季(桜が原中3年)



佳作

西村 耀(旭が丘小1年)

沖田 翔星(黒木小1年)

佐々木 麻央(萱瀬小2年)

橋本 佳奈(竹松小2年)

鴨川 紗依(放虎原小3年)

松尾 悠樹(放虎原小3年)



辻 実織(萱瀬小4年) 田中 ありん(黒木小4年) 森 美桜(放虎原小5年) 大坂 羽生(大村小6年) 山本 仁菜(萱瀬小6年) 永柄 香帆(富の原小6年)



山下 結夢(西大村中1年) 大藤 詩乃(玖島中1年) 吉野 明歩(大村中1年) 村井 優(大村中2年) 山下 風佳(玖島中2年) 林田 樹季(西大村中2年)



安全安心な街づくり

平成6年に小学生が誘拐され殺害されるという大変痛ましい事件が発生し、このような事件を二度と起こさないため、警察や教育関係者はもちろん、お子さんをお持ちの保護者やボランティアの方々により、地域ぐるみで子どもを犯罪被害から守るための取組みが進められ「子ども110番」の設置が始まりました。

現在「子ども110番の家マップ」(事業所)を作成中です。完成後は、市ホームページに掲載する予定です。完成まではもう少し時間がかかりますが、完成までの間も、通学路や校区内、よく遊びに行く場所の付近の「子ども110番の家」はどこにあるか確認してみたい方は、ぜひご連絡ください。また、「子ども110番の家」に登録をしたい方、事業所がございましたら、少年センター(電話番号:54-6405)までご連絡ください。

< 連載コラム >

このコラムを始めたときに、いつか取り上げたいと思ったテーマをふと思い出しました。それは、さだまさしの「サナトリウム」という歌の中にあります。

「病室を出ていくと言うのに こんなに心が重いとは思わなかった。…」
 という出だしから、縁もゆかりもなかったおばあさんの思い出が語られます。さださんは若いころ病気で入院した経験があり、それをモチーフにした歌だと思えます。その歌の中では、飲んだ薬の数を忘れてしまうおばあさんが夜中に毛布を掛けることだけは忘れないでいてくれたこと。人のうわさ話やどうでもいいような話をにこやかに聞いているだけの日常が語られます。そして、2か月間、彼女を訪れる人が誰もなかった現実が突きつけられます。

途中のサビで「人は誰も子供に帰っていくというけれど、それはたぶんそれは嘘だ。思い通りに飛べない心と動かぬ手足。燃え残る夢たち…」と歌は続きます。

私たちは確実に年を取ります。私の10年後、20年後は今の高齢者の方の姿です。20代の人だって、いずれ通る道です。老いた先の風景をまだ見ていませんが、父や母の姿を見るときに確実に着実にゴールに近づくことだけは理解できています。

歌はエピローグ。最後のフレーズです。退院する主人公がつぶやきます。
 「たった一つ ぼくにもできる ささやかな真実がある それは わずか一人だが 彼女への見舞客に 来週から なれること…」

なんと思いやりがあり行動力のある人でしょうか。この歌を聴くといつも涙が出ます。あつたかい未来を予感させます。誰かが誰かを支える社会というのは一つの理想です。創作の中のきれいごとかもしれませんが、そうだったら本当にいいなあと思わされます。

忙しい日常、ストレスを感じる環境、自分のことで精いっぱい毎日かもしれませんが、周りを見渡す心の余裕と思いやりの気持ちは持ち続けたいですね。歌の彼のようなことはできそうにありませんが、その思いは受け止めたいと思います。そして、私たちの背中を見て、未来を担う子どもたちが一人でも多く、誰かのために行動に移せる人になるといいなあと思います。

今年も大村公園の桜は誇らしげに春を教えてくれています。さあ、新年度もスタートです。



青少年に関する相談は少年センター(月~金 8:30~17:15)へ
 ☆相談電話(ヤングテレフォン)0957-49-5263
 ☆Eメール相談 : kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp